

# 岩手県感染症週報

令和7年第10週 (3月3日～3月9日)

岩手県感染症情報センター

## 第10週の概要

### 1 類感染症

- 患者発生の報告はありませんでした。

### 2 類感染症

- 患者発生の報告はありませんでした。

### 3 類感染症

- 患者発生の報告はありませんでした。

### 4 類感染症

- レジオネラ症の報告が1例ありました。

### 5 類感染症 (全数把握対象疾患)

- 梅毒の報告が1例ありました。
- 百日咳の報告が10例ありました。

### 5 類感染症 (定点把握対象疾患)

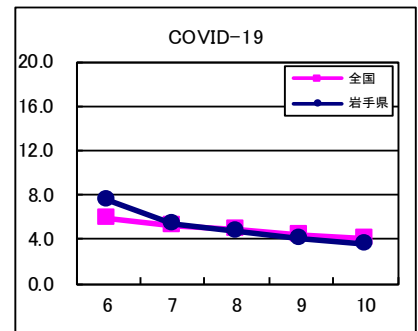
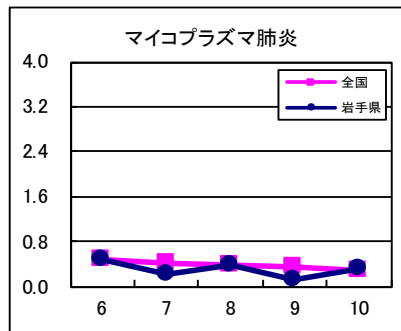
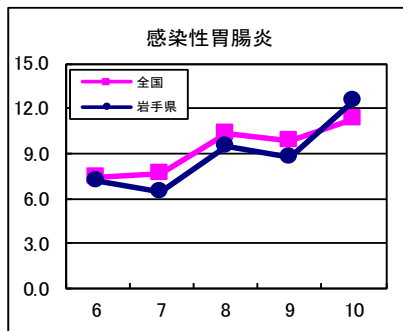
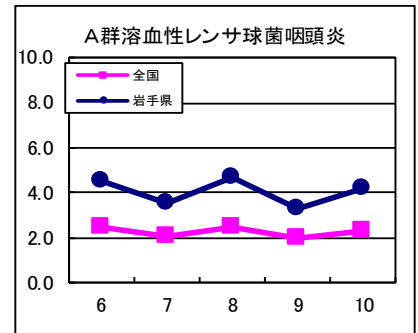
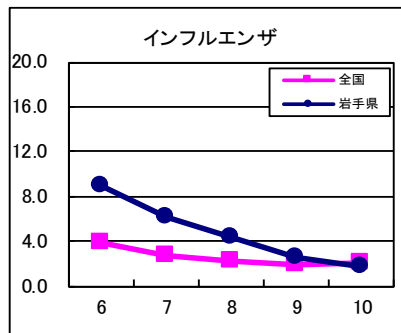
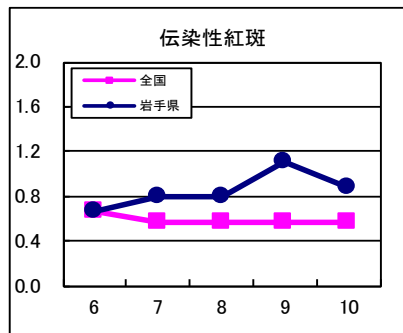
- 感染性胃腸炎は増加し、定点当たり患者数は12.49人となりました。盛岡市で警報値(20人)を超えています。集団発生事例が教育保育施設、高齢者施設等で9件ありました。集団生活をしている施設では特に注意が必要です。胃腸炎ウイルスは消毒用アルコールが効きにくいいため、石けんと流水による手洗いが重要です。体調管理に気を付け、調理や食事の前、トイレの後は手を洗いましょう。患者の吐物や便は、使い捨て手袋とマスクを着用し塩素系消毒剤で処理してください。換気も忘れずに行いましょう。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は増加し、定点当たり患者数は4.21人となりました。中部地区で警報値(8人)を超えています。発熱、莓状の舌、全身倦怠感、咽頭痛を主症状とする細菌感染症で、猩紅熱や糸球体腎炎に発展する場合があります。予防には、手洗い、咳エチケットのほか、患者との濃厚接触を避けることが有効です。
- 伝染性紅斑(リンゴ病)は減少し、定点当たり患者数は0.87人となりました。小児を中心に冬から夏にかけて流行するウイルスによる発疹性疾患です。両頬に境界明瞭な紅斑、四肢にはレース状の紅斑が現れます。予防には、手洗いや咳エチケットが有効です。

「岩手県・新型コロナ対策  
パーソナルサポート  
(@iwatevscovid19)  
ID検索またはQRコードか  
ら友達追加



## 最近の注目疾患 (定点あたり患者数の過去5週の動き)

(疾患によって目盛りのスケールが異なることに注意)



定点把握対象疾患 (過去5週の動き)

報告週対応表 <https://www.niid.go.jp/niid/ja/calendar.html>

※2023年第19週より新型コロナウイルス感染症が定点把握対象疾患となりました。

※2018年1月1日より百日咳が5類感染症 (定点把握疾患) から5類感染症 (全数把握疾患) へ変更されました。

※2013年第42週より感染性胃腸炎 (ロタウイルス) が定点把握対象疾患となりました。(定点あたり患者数)

疾病名	地域	週					流行傾向	
		6	7	8	9	10		
インフルエンザ	岩手県	8.94	6.10	4.35	2.60	1.65	↓	☆
	全国	3.78	2.63	2.21	1.89	2.02		
RSウイルス感染症	岩手県	0.82	0.59	0.33	0.36	0.74	↑	☆
	全国	0.96	1.06	1.21	1.27	1.41		
咽頭結膜熱	岩手県	0.18	0.36	0.33	0.15	0.13	→	☆
	全国	0.32	0.28	0.29	0.25	0.29		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	4.56	3.51	4.67	3.33	4.21	↑	☆☆
	全国	2.48	2.08	2.44	1.95	2.33		
感染性胃腸炎	岩手県	7.23	6.46	9.49	8.79	12.49	↑	☆☆
	全国	7.39	7.70	10.32	9.83	11.38		
水痘	岩手県	0.28	0.10	0.21	0.13	0.15	→	☆
	全国	0.29	0.24	0.27	0.25	0.27		
手足口病	岩手県	0.21	0.18	0.26	0.00	0.05	→	
	全国	0.08	0.06	0.06	0.05	0.05		
伝染性紅斑	岩手県	0.67	0.79	0.79	1.10	0.87	↓	☆
	全国	0.67	0.56	0.56	0.57	0.57		
突発性発疹	岩手県	0.33	0.21	0.10	0.18	0.33	→	☆
	全国	0.20	0.18	0.20	0.18	0.20		
ヘルパンギーナ	岩手県	0.03	0.03	0.00	0.00	0.00	→	
	全国	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01		
流行性耳下腺炎	岩手県	0.05	0.00	0.00	0.03	0.10	→	☆
	全国	0.03	0.04	0.03	0.04	0.04		
急性出血性結膜炎	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→	
	全国	0.05	0.03	0.03	0.04	0.04		
流行性角結膜炎	岩手県	0.43	1.36	0.86	0.71	0.57	→	☆
	全国	0.80	0.74	0.82	0.73	0.83		
新型コロナウイルス感染症	岩手県	7.44	5.40	4.63	4.00	3.52	↓	☆
	全国	5.82	5.15	4.95	4.42	4.07		
細菌性髄膜炎	岩手県	0.11	0.00	0.00	0.00	0.00	→	
	全国	0.02	0.01	0.02	0.03	0.02		
無菌性髄膜炎	岩手県	0.05	0.00	0.00	0.05	0.00	→	
	全国	0.02	0.01	0.03	0.02	0.02		
マイコプラズマ肺炎	岩手県	0.47	0.21	0.37	0.11	0.32	↑	☆
	全国	0.47	0.42	0.37	0.36	0.28		
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→	
	全国	0.00	-	0.01	0.00	-		
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	岩手県	0.00	0.00	0.05	0.05	0.00	→	
	全国	0.06	0.07	0.11	0.15	0.15		
インフルエンザ (入院患者) ※報告数であることに注意	岩手県	20	14	17	3	6		
	全国	376	299	209	157	140		

【流行傾向の見方】

- 無印 : ほとんど患者が発生していません
- ☆ : 患者が発生しています
- ☆☆ : 警報値を超えた地区が1～2地区あります
- ☆☆☆ : 多くの地区で警報値を超えています

全数把握対象疾患 (過去5週の動き)

※ジカウイルス感染症が2016年2月15日から四類感染症に追加されました。

(患者発生数)

分類	疾病名	(週)	岩手県					全国	
		6	7	8	9	10	累計	10	累計
一類 感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	結核 ( ) 内は潜在性結核感染症患者再掲	1 (1)	0 (0)	3 (1)	5 (3)	0 (0)	17 (7)	206	2330
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	中東呼吸器症候群 (MERS)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H7N9)	0	0	0	0	0	0	0	0
三類	コレラ	0	0	0	0	0	0	0	3
	細菌性赤痢	0	0	1	0	0	1	2	8
	腸管出血性大腸菌感染症	1	1	2	0	0	6	11	246
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	0	1
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	1	1
四類 感染症	E型肝炎	0	1	0	0	0	1	12	77
	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0
	A型肝炎	0	0	0	0	0	0	5	30
	エキノкокクス症	0	0	0	0	0	0	0	4
	エムボックス	0	0	0	0	0	0	0	0
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0	0	0	1	1
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	0	1
	キャサヌル森林病	0	0	0	0	0	0	0	0
	Q熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	0	1
	ジカウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	0	0	0	0	0	0	0	0
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	0	3
	つつが虫病	0	0	0	0	0	0	1	32
	デング熱	0	0	0	0	0	0	8	34
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1、H7N9を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	1
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
	鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	0	0
	ベネゼエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0	0	
ボツリヌス症	0	0	0	0	0	0	0	1	
マラリア	0	0	0	0	0	0	0	4	
野兔病	0	0	0	0	0	0	0	0	
ライム病	0	0	0	0	0	0	0	0	
リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0	
類鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0	
レジオネラ症	1	0	0	0	1	2	31	309	
レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	0	0	
ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	

全数把握対象疾患 (続き) (過去5週の動き)

(患者発生数)

分類	疾病名	(週)					累計	全国	
		6	7	8	9	10		10	累計
五類感染症	アメーバ赤痢	0	0	0	0	0	0	5	84
	ウイルス性肝炎 (A型肝炎及びE型肝炎を除く)	0	0	0	0	0	1	7	40
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	0	0	0	0	0	2	26	340
	急性弛緩性麻痺	0	0	0	0	0	0	1	6
	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く)	0	0	0	0	0	0	2	157
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	0	0	4
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	0	2	33
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	0	0	2	0	5	32	355
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0	0	5	130
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	0	4
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	0	11	173
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	3	20
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	1	0	0	0	1	67	1000
	水痘 (入院例)	0	0	0	0	0	1	8	92
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	梅毒	0	0	0	1	1	5	153	2376
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	0	2	33
	破傷風	0	0	0	0	0	0	1	16
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	0	1	13
百日咳	3	3	2	6	10	30	482	2924	
風しん	0	0	0	0	0	0	1	3	
麻しん	0	0	0	0	0	0	12	22	
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	1	5	

今注目の感染症

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎と劇症型溶血性レンサ球菌感染症

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、A群溶血性レンサ球菌を原因とする5類感染症定点把握対象疾患です。毎年冬から春にかけて患者が増加する傾向があります。飛沫感染や接触感染により伝播し、症状は、発熱、咽頭痛、全身倦怠感のほか、傷口からの感染によるとみられる蜂窩織炎や壊死性筋膜炎、菌血症等を引き起こすこともあります。稀に引き起こされる劇症型溶血性レンサ球菌感染症は重症例であり、A群溶血性レンサ球菌のほかB群、C群、G群の溶血性レンサ球菌も原因となります。5類感染症全数把握対象疾患に分類されており、敗血症性ショック症状のほか、肝不全、腎不全、呼吸不全の一種である急性呼吸窮迫症候群、播種性血管内凝固症候群、軟部組織炎等への劇的な症状の進行を特徴とし、死亡することがあります。

全国のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は、2023年10月以降増加し、過去10年間の同時期と比べ高いレベルで推移しています(図1)。また、劇症型溶血性レンサ球菌感染症の2024年の届出報告数は、1999年に統計を取り始めて以降最多となり、高齢者を中心に多くなっているほか、妊産婦での報告もあります。

一方、県内のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は、令和6年5月以降増加し、過去4年間の同時期と比べ最も多くなっています(図2)。また、令和6年の劇症型溶血性レンサ球菌感染症の届出報告数は12人となり、1999年からの調査開始以降最多となっています。今週の県内保健所管内ごとのA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者数は図3のとおりです。

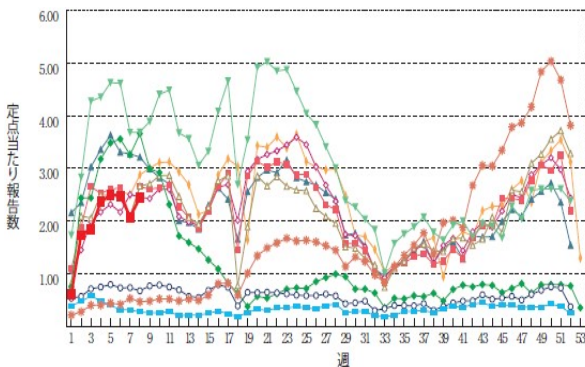


図1 全国のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の発生状況 (2015年～2025年第8週) (国立感染症研究所HPより)

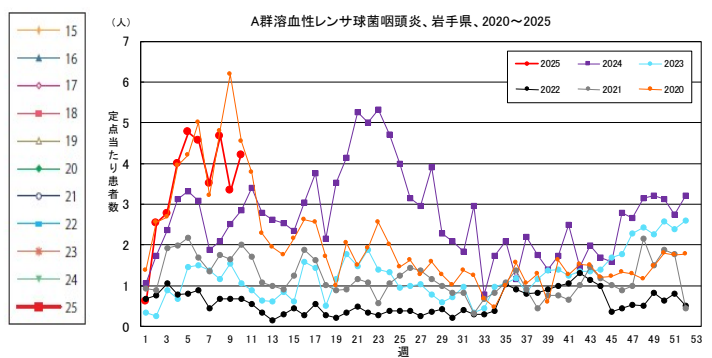


図2 岩手県のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の発生状況 (2020年～2025年第10週)

今注目の感染症

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎と劇症型  
溶血性レンサ球菌感染症 (続き)

溶血性レンサ球菌は保菌者の飛沫や接触により感染します。特に家庭内では感染が広がりやすいので気を付けましょう。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の予防方法等は以下のとおりです。

- (1) 手洗い、うがいの励行。手指をアルコール消毒する。
- (2) 咳エチケット。
- (3) 溶血性レンサ球菌はアルコールや塩素系消毒剤等の消毒薬で死滅するので、ドアノブやおもちゃ等を清掃消毒する。
- (4) タオルの共用は行わない。
- (5) 傷口の清潔保持。症状がある場合には、早めに受診する。

【参考】

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/pneumococcal-m/group-a-streptococcus-idwrc/12361-idwrc-2343.html>

劇症型溶血性レンサ球菌感染症 (厚生労働省)

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000137555\\_00003.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000137555_00003.html)

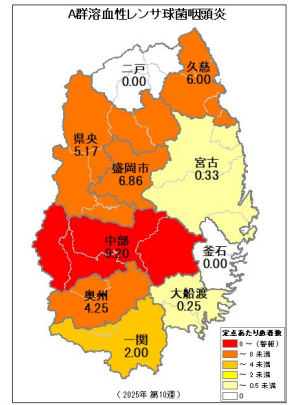


図3 第10週の保健所管内別の状況

※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報(行政区域データ)」をもとに岩手県が編集・加工した。  
※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地図情報)を使用した。(承認番号 平29情使、第675号)

今注目の感染症

伝染性紅斑

伝染性紅斑は、ヒトパルボウイルスB19により小児を中心に見られる流行性の発疹性疾患です。典型例では両頬に境界明瞭な紅斑が出現することが特徴的で、リンゴ病と呼ばれることもあります。四肢にも網目状、レース様の発疹が見られます。

感染経路は飛沫感染、接触感染です。潜伏期間は10日から20日と言われており、感染後1週間頃にウイルス血症を起こし、インフルエンザ様症状を呈することがあります。この時期にウイルスが排出され、発疹が出現する時期には抗体が産生されてウイルスは排出されないとされています。

成人が感染した場合では関節痛が見られることがあり、長引くことがあるほか、妊婦が感染すると胎児に感染して流産、死産を起こすことがあります。なお、感染が確認された新生児でも発育が正常であることが多いようですし、先天異常も確認されていない模様です。

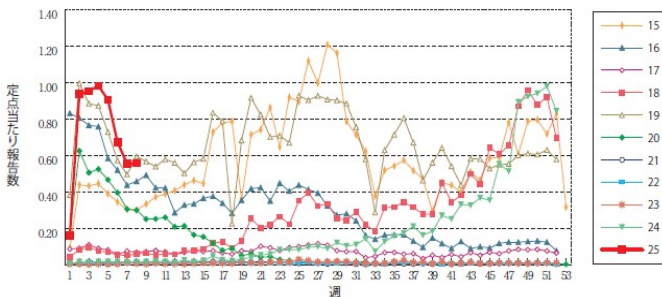


図1 全国の伝染性紅斑の発生状況 (2015年～2025年第8週) (国立感染症研究所HPより)

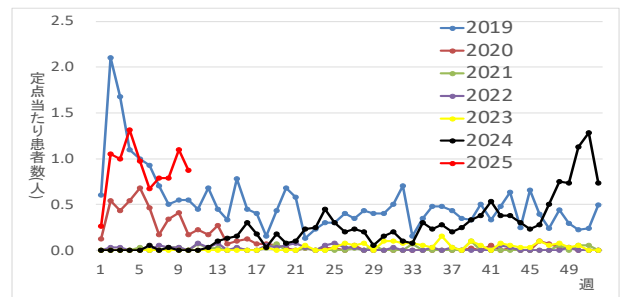


図2 岩手県の伝染性紅斑の発生状況 (2019年～2025年第10週)

全国の発生状況は図1のとおりです。岩手県の発生状況は、2024年の第48週頃から増加が見られ、2019年以来の流行となっています(図2)。今週の県内各保健所管内ごとの定点当たり患者数は図3のとおりです。

ウイルスが排出される時期に感染していることがわからないことと、アルコール消毒が効きにくいことから対策は容易ではありません。

- (1) 日頃から石けんと流水による手洗いの励行
- (2) 咳エチケット
- (3) 塩素系消毒剤によるドアノブやおもちゃの消毒
- (4) 食器等の共用を避ける
- (5) 妊婦では日頃から予防対策を徹底すること

【参考】

伝染性紅斑 (ヒトパルボウイルスB19感染症) (国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/5th-disease-m/5th-disease-idwrc/8749-idwrc-1914.html>

伝染性紅斑等は (国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/443-5th-disease.html>

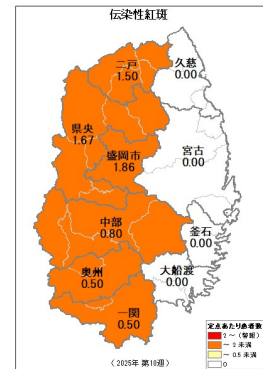


図3 第10週の保健所管内別の状況

※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報(行政区域データ)」をもとに岩手県が編集・加工した。  
※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地図情報)を使用した。(承認番号 平29情使、第675号)

今注目の感染症

感染性胃腸炎

感染性胃腸炎は、細菌やウイルスなどの微生物を原因とする胃腸炎の総称です。毎年秋から冬にかけて流行し、その原因はノロウイルスやサポウイルスなどのウイルスが大部分を占めています。感染性胃腸炎の原因ウイルスは、手指や食品などを介して経口感染し、嘔吐、下痢、腹痛などを引き起こします。健康な人は軽症で回復しますが、子どもや高齢者は重症化したり、吐物を誤って気道に詰まらせて死亡することがあります。

全国の感染性胃腸炎の報告数は、例年11月から増加し12月と1月から2月頃にピークを迎えます(図1)。

一方、県内の感染性胃腸炎の報告数は、2024年では全国と同様の流行形態をとっており、第5週にピークを迎えました(図1及び2)。2025年は第10週まで増加の傾向にあります。今週の県内各保健所管内ごとの定ポイントあたり患者数は図3のとおりです。

県内の集団感染事例は、2023年4月から2024年3月までに85例報告されました。内訳は、42例はノロウイルス、2例はノロウイルスとサポウイルス、2例はアストロウイルス、2例はサポウイルスによるもの、37例はその他でした。また、2024年4月から2025年第10週までに77例報告がありました。内訳は、46例はノロウイルス、2例はノロウイルスとサポウイルス、1例はノロウイルスとアデノウイルス、5例はサポウイルス、3例はアデノウイルスによるもの、1例はエンテロウイルスやヒトパレコウイルス等、1例はアデノウイルスやヒトパレコウイルス等、18例はその他でした。

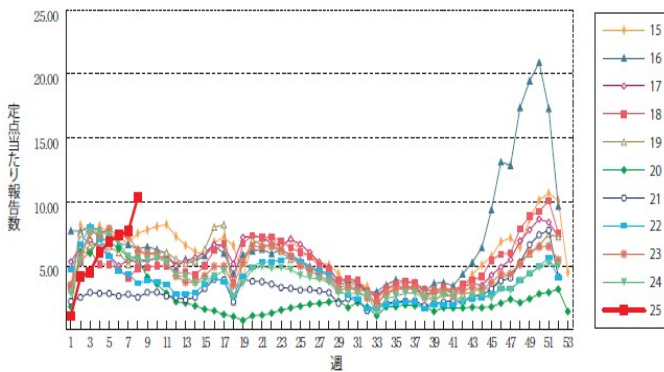


図1 全国の感染性胃腸炎の発生状況 (2015年～2025年第8週)  
(国立感染症研究所HPより)

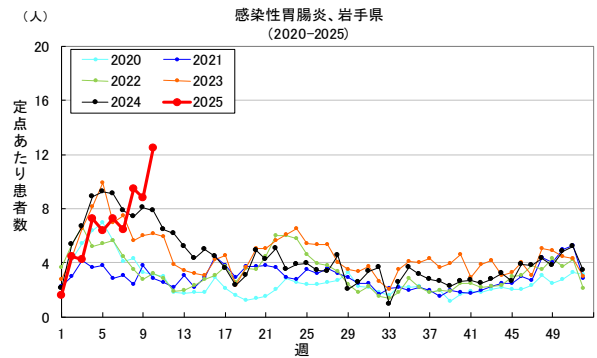


図2 岩手県の感染性胃腸炎の発生状況  
(2020年～2025年第10週)

感染性胃腸炎の主な原因となるウイルスは感染力が非常に強く、少量のウイルスでも感染する特徴があります。学校や教育保育施設、老人福祉施設などの集団生活を営む施設では、感染予防対策の再確認が勧められます。

ウイルス性胃腸炎の予防方法は以下のとおりです。

- (1) トイレの後、調理前、食事前には石けんと流水で十分な手洗いを行う。
- (2) 調理する場合、加熱が必要な食品は85～90℃・90秒以上で十分加熱する。
- (3) 嘔吐した場合は、部屋の換気を十分に行いながら、マスクや使い捨て手袋を用いて片付け、嘔吐した場所や使用した器具を塩素系消毒剤で消毒する。
- (4) 嘔吐、下痢等の症状がある場合には、早めに受診する。

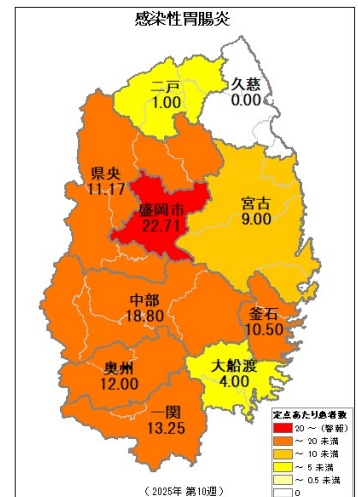


図3 第10週の保健所管内別の状況

【参考】

感染性胃腸炎とは (国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/383-intestinal-intro.html>

ノロウイルスに関するQ&A (厚生労働省)

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html)

※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報(行政区画データ)」をもとに岩手県が編集・加工した。  
※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地図情報)を使用した。(承認番号 平29情使、第675号)

今注目の感染症

新型コロナウイルス感染症

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、コロナウイルス科ベータコロナウイルス属の新型コロナウイルスによる急性呼吸器症候群です。

2023年第19週（5月8日～14日）から全数把握対象疾患ではなく、五類感染症の定点把握対象疾患となり、県内の発生動向は定点医療機関からの患者数の報告に基づいて公表しています。

2023年第19週以降の国内と県内の定点当たり患者数は図1のとおり、2024年8月から2025年1月までに県内で検出された新型コロナウイルス変異株の解析結果は図2のとおり、2025年第10週の県内保健所管内ごとの定点当たり患者数は図3のとおりです。国内で流行し始めている新たな変異株XECが県内でも確認されています。

高齢者や基礎疾患のある方は重症化のリスクがあるので特に注意が必要です。予防には、咳エチケットや手洗い、換気等普段からの感染症予防対策に努めていただくとともに、「3つの密」（換気の悪い密閉空間、人が多数集まる密集場所、間近で会話や発声をする密接場面）を避けるようにしましょう。

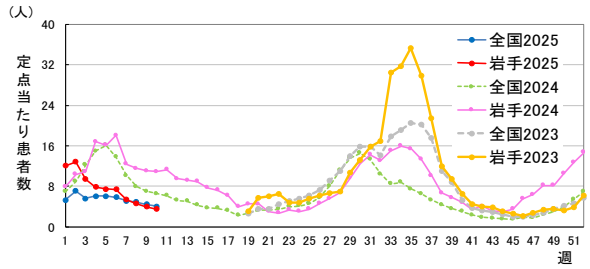


図1 全国及び岩手県の状況(2023年第19週～)

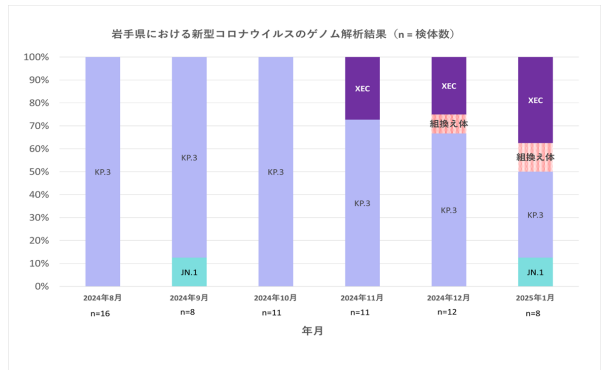


図2 岩手県における新型コロナウイルスゲノム解析結果(2024年8月～2025年1月)



<<岩手県の電話相談窓口>>

県民医療相談センター 受付時間 平日9時から16時  
 TEL : 019-629-9620 FAX : 019-626-0837  
 いわて発熱等相談センター 受付時間 平日夜間16時から翌朝9時  
 及び休日、年末年始  
 TEL : 0570-059-333 FAX : 050-3816-3649

「かかりつけ医」がない場合、ご相談ください。

- ① 発熱等の症状がある場合の健康相談や受診先の相談。
- ② ワクチンの効果や体への影響、接種後の副反応についての相談。

岩手県の受診・相談（新型コロナウイルス感染症）のホームページはこちら

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/iryou/covid19/1052939.html>

また、新型コロナウイルス感染症の最新情報については、厚生労働省及び国立感染症研究所のホームページで随時更新されています。ご確認をお願いします。

◆参考

新型コロナウイルス感染症について－厚生労働省－

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708\\_00001.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html)

新型コロナウイルス（2019-nCoV）関連情報について－国立感染症研究所－

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ka/corona-virus/2019-ncov/9324-2019-ncov.html>

岩手県の新型コロナウイルス感染症関連情報

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/iryou/covid19/index.html>

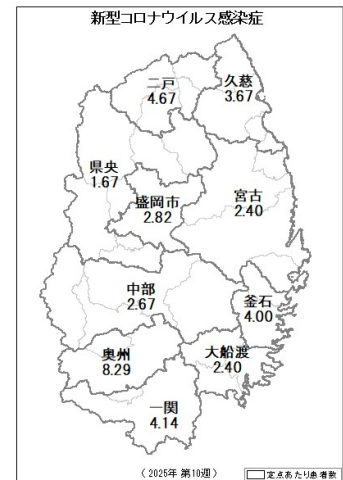


図3 第10週の保健所管内別の状況

※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報（行政区域データ）」をもとに岩手県が編集・加工した。  
 ※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図（国土基本情報）電子国土基本図（地図情報）を使用した。（承認番号 平29情使、第675号）

## 集団感染情報

○インフルエンザによる学校等の休業措置について（令和7年3月4日、7日公表分）

- ・岩手県 1件
- ・盛岡市 1件

詳細は岩手県医療政策室のホームページをご覧ください。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/iryuu/kenkou/influ/1060843.html>

○新型コロナウイルス感染症によるクラスターの発生について(令和7年3月12日公表分)

- ・岩手県 3件
- ・盛岡市 2件

○感染性胃腸炎の集団発生について

- ・中部保健所管内の教育保育施設（園児145名・職員39名）  
令和7年2月22日(土)から3月5日(水)にかけて、園児10名に症状(嘔吐・下痢等) 有症者4名からノロウイルスを検出
- ・盛岡市保健所管内の教育保育施設  
令和7年2月20日(木)から2月28日(金)にかけて、園児15名、職員1名に症状(嘔吐・下痢等) 有症者1名からノロウイルスを検出
- ・盛岡市保健所管内の教育保育施設  
令和7年2月25日(火)から3月5日(水)にかけて、園児23名、職員1名に症状(嘔吐・下痢等)
- ・盛岡市保健所管内の学校（児童・教職員500名以上）  
令和7年2月27日(木)から3月6日(木)にかけて、児童29名に症状(嘔吐・下痢等)
- ・盛岡市保健所管内の教育保育施設（園児・職員150名以上）  
令和7年2月24日(月)から3月4日(火)にかけて、園児25名、職員3名に症状(嘔吐・下痢等)
- ・盛岡市保健所管内の教育保育施設（園児・職員150名以上）  
令和7年2月22日(土)から3月3日(月)にかけて、園児30名、職員1名に症状(嘔吐・下痢等)
- ・奥州保健所管内の高齢者施設（利用者30名・職員25名）  
令和7年3月2日(日)から3月10日(月)にかけて、利用者10名、職員7名に症状(嘔吐・下痢等) 有症者3名からノロウイルスを検出
- ・県央保健所管内の教育保育施設（園児137名・職員36名）  
令和7年2月25日(火)から3月10日(月)にかけて、園児14名、職員1名に症状(嘔吐・下痢等) 有症者2名からノロウイルスを検出
- ・釜石保健所管内の教育保育施設（園児70名・職員24名）  
令和7年2月17日(月)から3月3日(月)にかけて、園児31名、職員3名に症状(嘔吐・下痢等) 有症者5名からアデノウイルスを検出



## 病原体検出情報

- ・この週には病原体検出情報はありません。

## 医療機関からの情報

- ・この週には医療機関からの情報はありません。

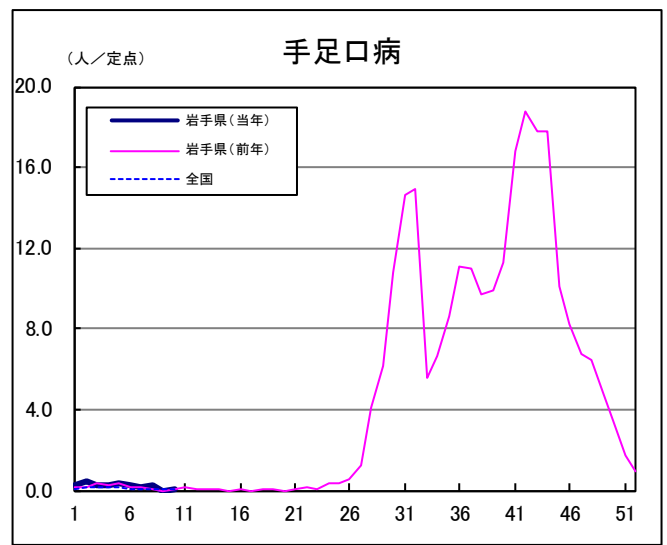
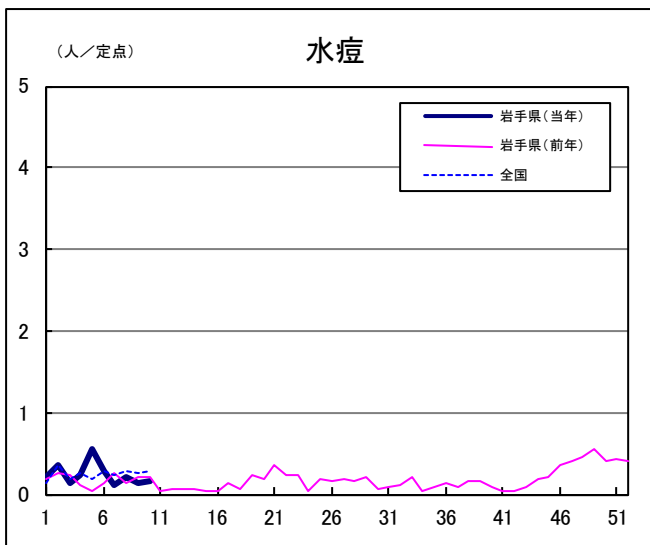
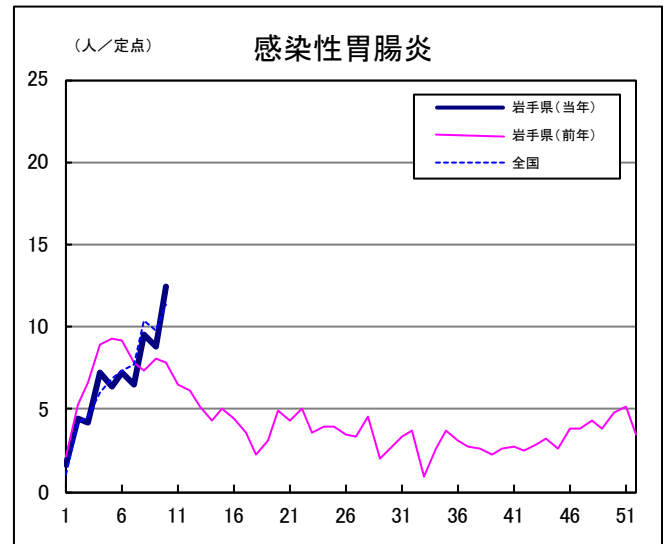
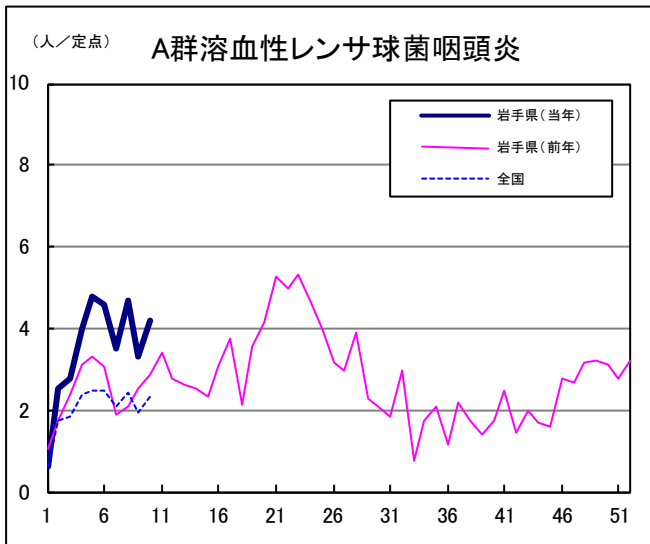
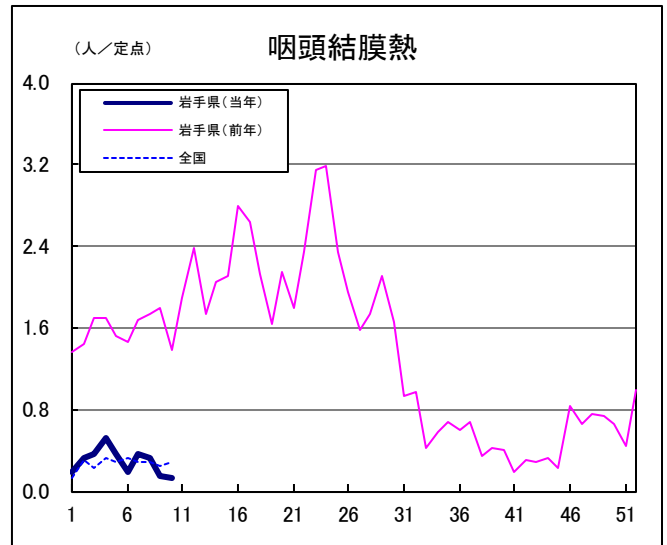
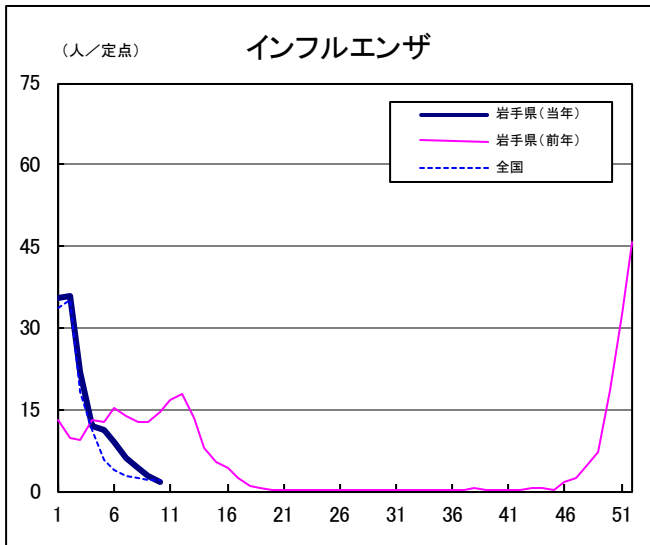
## Q & A

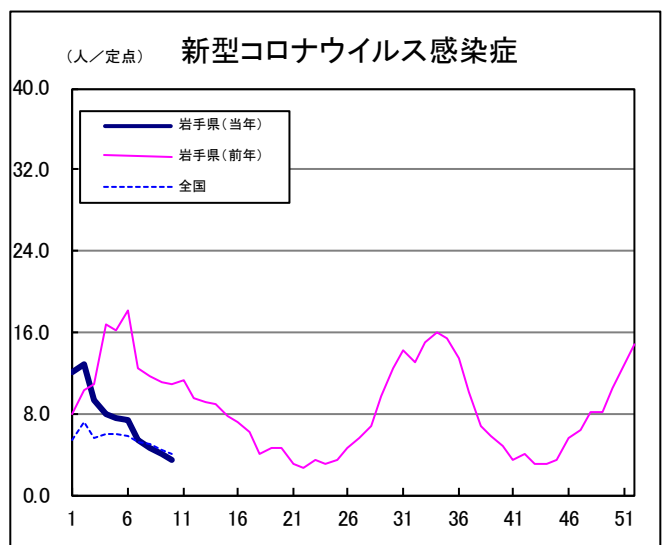
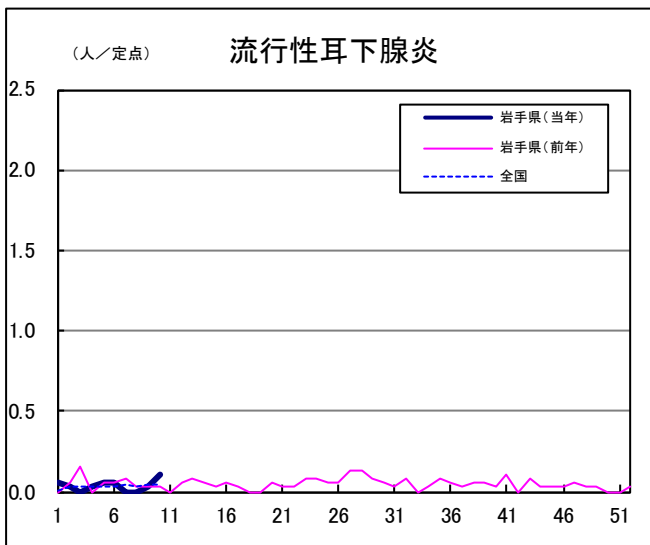
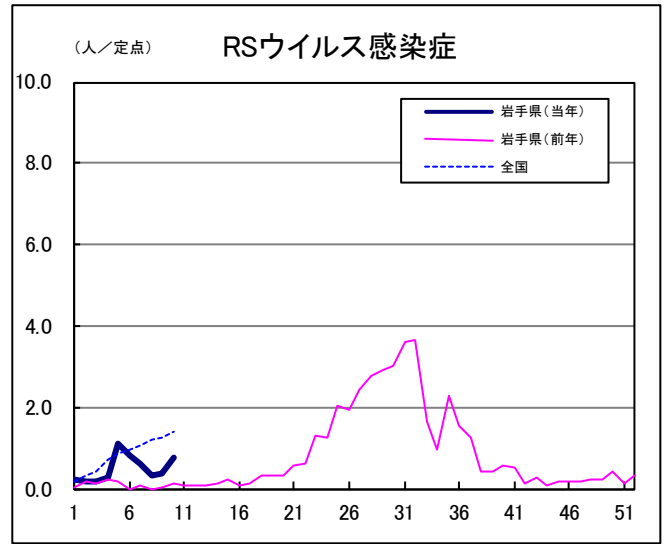
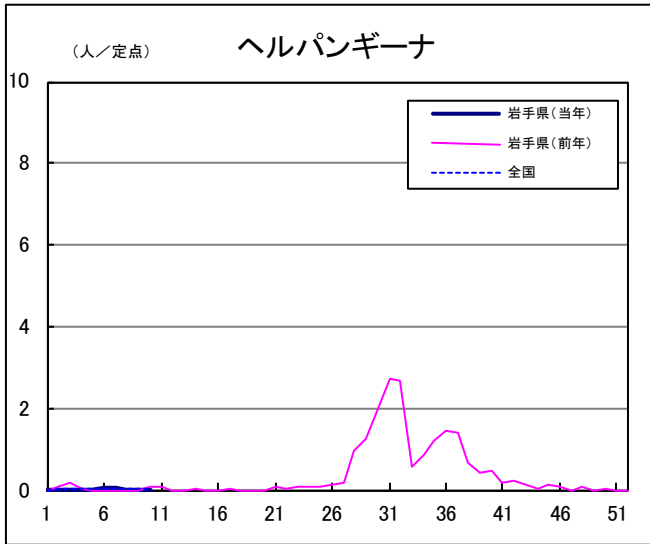
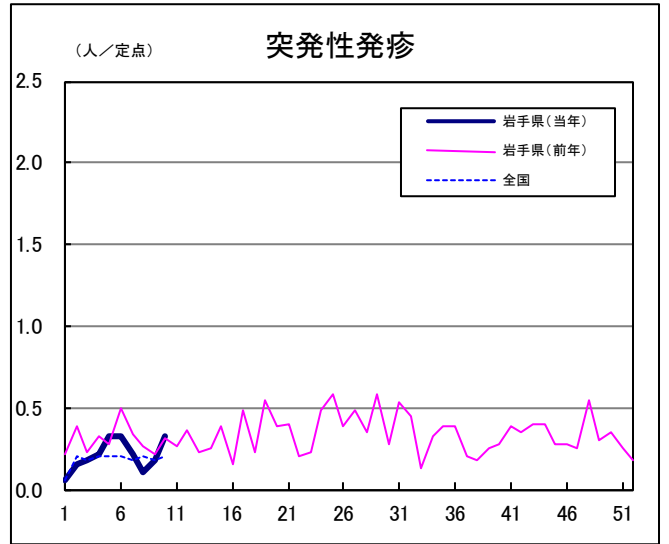
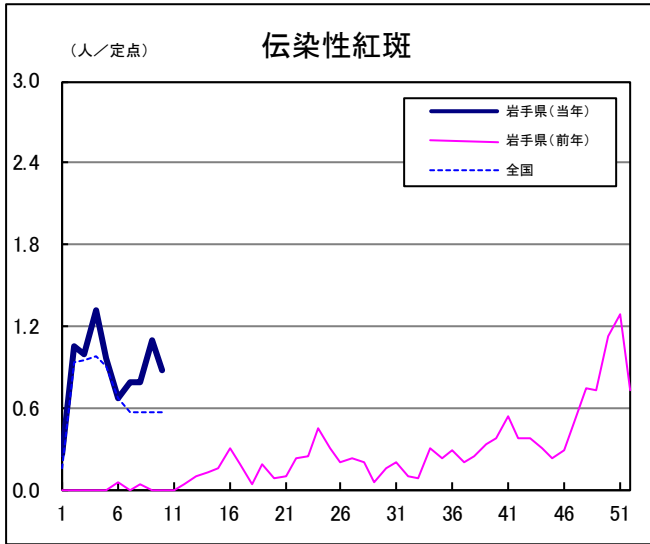
読者の皆様からのご質問にはこの欄でお答えします。

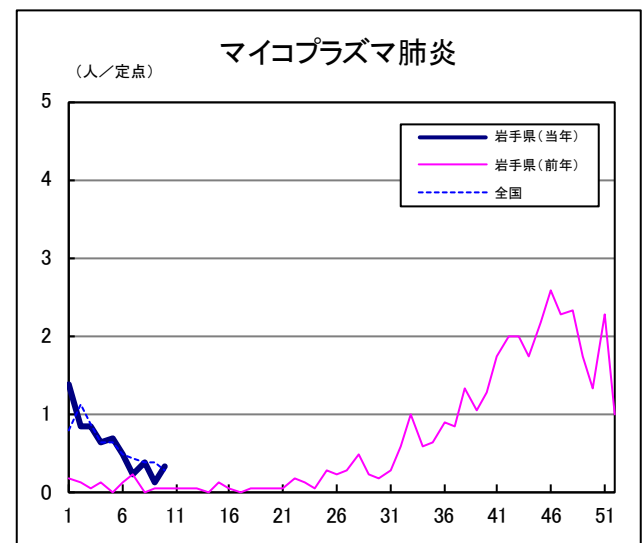
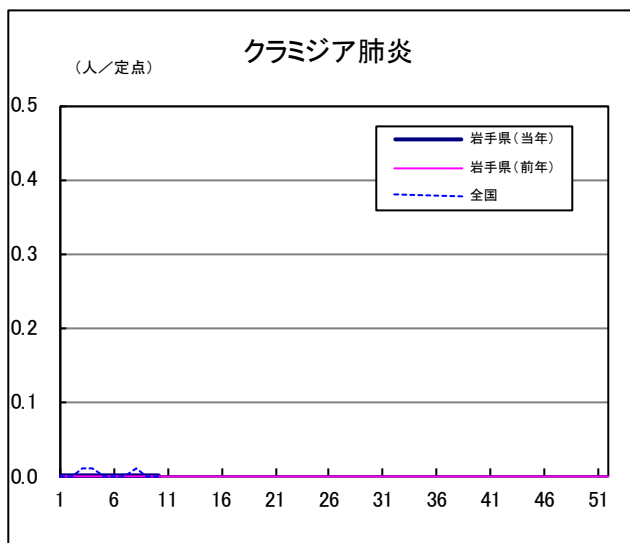
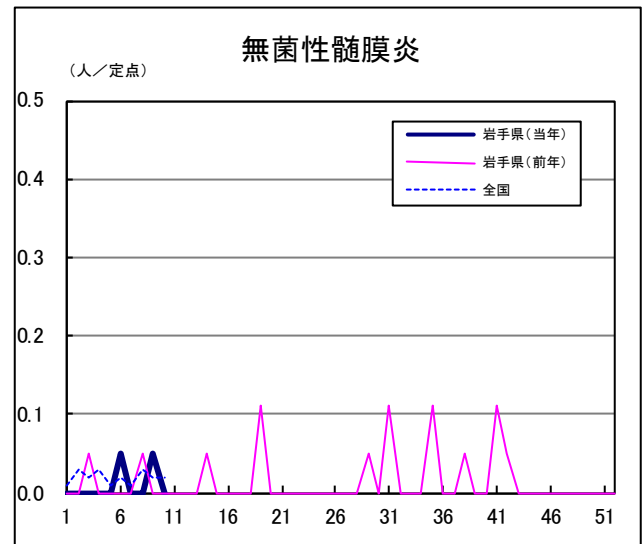
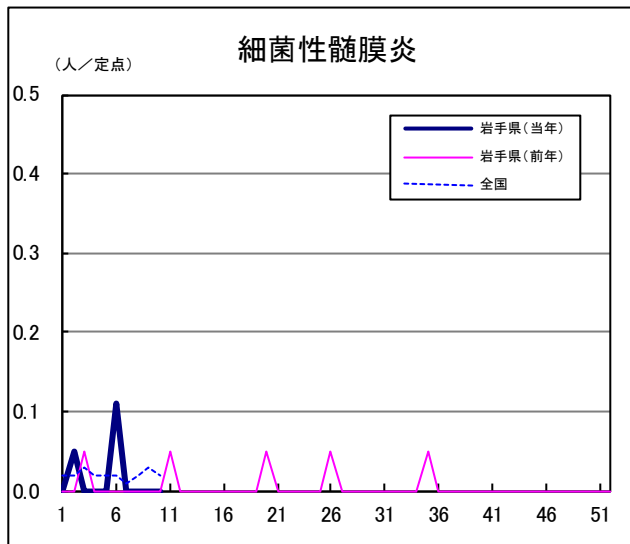
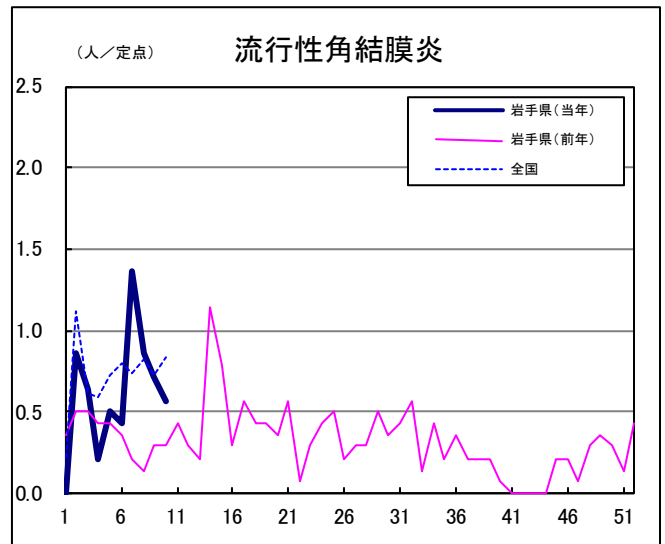
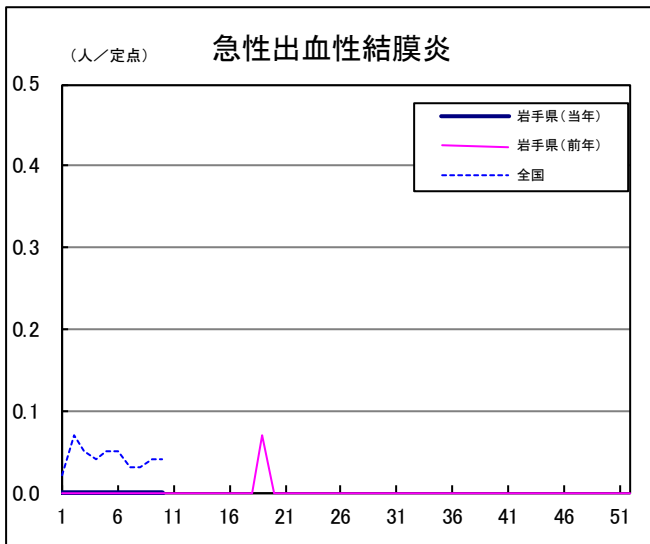
医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記の宛先までお寄せください。  
岩手県感染症情報センター（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）  
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16  
TEL:019-656-5669（直通） FAX:019-656-5667  
E-mail: CC0019@pref.iwate.jp



疾病別グラフ (定点あたり患者数の推移)







定点医療機関の数

地区	定点種別 インフルエンザ /COVID-19	小児科 定点	眼科定点	基幹定点
岩手県	62	39	14	19
盛岡市	11	7	3	4
県央	9	6	2	1
中部	9	5	2	4
奥州	7	4	1	2
一関	7	4	1	2
大船渡	5	4	1	1
釜石	3	2	1	1
宮古	5	3	1	1
久慈	3	2	1	1
二戸	3	2	1	2



無料です!!

岩手の感染症情報を毎週メールでお届けする

「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」を配信しています。

配信の登録は以下のURLからお願いします。

<https://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/mailmagazine.html>

岩手県感染症週報 令和7年第10週 令和7年3月14日発行

監修：岩手県感染症発生動向調査協議会

発行：岩手県環境保健研究センター  
岩手県保健福祉部医療政策室

事務局：岩手県感染症情報センター  
(岩手県環境保健研究センター保健科学部内)

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

TEL:019-656-5669 (直通) FAX:019-656-5667

E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

URL: <https://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/>

<岩手県感染症情報センター>

<https://www.pref.iwate.jp/soshiki/hofuku/1016013.html>

<岩手県保健福祉部医療政策室>